



## モンシロチョウの幼虫は卵の殻を食べるの

### 真っ先に卵の殻を食べる

チョウは、種類によって、幼虫が食べる植物は、決まっています。これを食草といいます。かえった幼虫がすぐえさを食べられるよう、食草の上に、1個ずつ産みつけられた卵は、中の幼虫が育つにつれて、卵の色が変化します。うすい卵の殻を通して、幼虫の体の色がすけて見えるようになるからです。

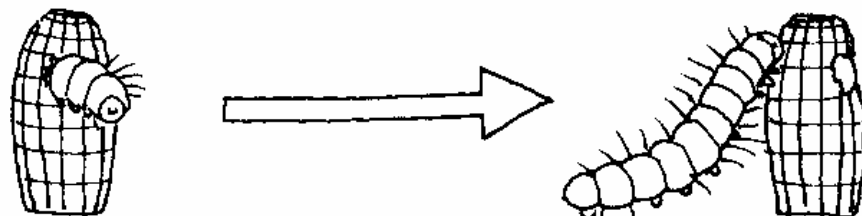
やがて、幼虫は、卵の中から殻をかじってあなを開け、外に出てきます。外に出たところで、ちょっとひと休みします。それからすぐ、自分が入っていた卵の殻を食べはじめます。幼虫になって最初に食べる物が卵の殻といえます。その後、すごい食欲で食草をもりもり食べ、だっ皮をくり返して、ぐんぐん大きくなっていきます。

### なぜ殻を食べるかは、わかっていない

モンシロチョウ、アゲハ、オオムラサキ、セセリチョウなど、卵から出て、自分の卵の殻を食べることが観察されているチョウは、たくさんいます。

でも、なぜ殻を食べるのかは、わかっていません。殻を食べなくても、その後のチョウの成長には、あまり関係がないようなのです。

ザリガニのように、だっ皮した後の殻を、食べる例もあります。これは、次のだっ皮のための材料や、栄養のたしにされると説明されています。（監修・中山 周平）



卵の殻を食べるモンシロチョウ

